

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・ 基本的な生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・ 職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業観・勤労観を身に付けた生徒 ・ 自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・ 生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう、「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・ 生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・ 生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・ 本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・ 向上心をもち、多様性を尊重し、仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・ 部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3 評価する領域・分野	◇教務（教務、特別活動、図書）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒による授業評価、保護者による学校評価において学習指導面、特別活動面では非常によい評価を得ている。また、「OPEN!飛騨神」、「白樺祭」における学校開放事業では本校の姿、魅力を十分に発信している。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 ICTを活用した効果的な学習・授業方法の研究、校務の効率化 2 新学習指導要領移行に伴う評価の方法や学習内容・方法の研究 3 生徒の自主的な活動を啓発するとともに、一人一人が主役となることで、学校生活の活性化と、自分自身や母校、地域に誇りを持つようになる。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 校内研修・研究授業・公開授業の実施 ・ 教科会を主とする共通理解に基づく全職員による学習指導体制	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
1. MetaMoji、manaba や Office 関連 (Forms、Teams、Stream 等) の操作やできることを理解するための研修の実施、公開授業や研究授業の実施と参加を促す 2. 校務の ICT 化 (Teams の活用) 3. 指導要録の記載内容変更の周知徹底と、観点別評価の基準や、シラバス、指導と評価の年間計画の立案 4. 生徒の様々な方面での主体的な取組みを推進し、その活動や本校の魅力を広く地域へ発信する。また、部活動への意欲的な参加を啓蒙し、支援することで部活動、学校の活発化を図る。	1. ICTに関するアンケート、授業評価 2. 教職員による評価 3. 観点別評価の基準や、シラバス、指導と評価の年間計画 4. ホームページ、facebook等の充実、生徒会活動、部活動加入率	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・ 1、2については無理のない範囲で ・ 3については今年度入学生より新課程となり、試行錯誤をしながら進めている ・ 4についてはInstagram開設、小中学生向けに飛騨神だよりを配布、北稜中2年学校見学など新たな試みも行っている。	・ ICT活用等によりわかりやすい授業が展開されている。 ・ 新課程の計画準備等ができています。 ・ 生徒の様々な主体的な取組みがなされている。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D

12 成 果 ・ 課 題	<p>▲ICTを活用した効果的な学習・授業方法の研究、校務の効率化については、授業内でのタブレット利用の機会は確実に増えているが、個別最適化には至っていないので、今後の課題である。</p> <p>○授業評価の結果は「プリントや資料、ICT機器を効果的に使うなど、教え方を工夫している」が約93%、「自ら学ぶ姿勢で授業に向かい、意欲的に授業に取り組んでいる」が約96%肯定的に回答しているが、この回答に甘んじることなく、常に授業研究に取り組みたい。</p> <p>○新課程初年度ということもあり、評価の方法等、年度途中で方針変換をしたところもあるが、次年度に向けての準備も進んでいる。</p> <p>○部活動加入率は86%（12月現在）と高い値ではあり、他にも生徒会活動など、生徒の主体的な活動がなされている。また、Instagram開設、小中学生向けに飛騨神だよりを配布するなど、広報活動も見直した。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な力が不足している生徒への対応 ・ICT機器を用いた個別最適化された学びの実践と研究 ・「総合的な探究の時間」と「産業社会と人間」をリンクさせ、指導内容や指導体制を更新しながら、探究的な学びを実践していく 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を尊重し、わかる授業となるようきめ細かい教育計画を立て、指導されていると高く評価する ・小規模校であるが、部活動や出前講座に積極的に参加し、全国レベルの成果をあげている部もあることはすばらしい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・ 職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業観・勤労観を身に付けた生徒 ・ 自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう、「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・ 生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・ 生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・ 向上心をもち、多様性を尊重し、仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・ 部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談、保健厚生、寮務）
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校評価アンケート(生徒)「18.基本的モラル、マナー指導」の評価において95%が身に付けさせようと努めていると回答。 ・学校評価アンケート(保護者・運営協議会)「21.個々の生徒に対する適切な指導」「22.いじめや差別を許さず厳しく対応」の評価について「わからない」の回答比率が増加している。しかし生徒の評価は決して低くなく、むしろ高くなっている。保護者の「わからない」の回答が増加している要因として、コロナ等により多くの行事等が削減され交流や生徒の様子を見る機会が減ったことにより、学校の取り組みが伝わりにくくなっていることが考えられる。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共心と公德心の育成（身だしなみ、情報モラル、授業規律等） ・ 自他を尊重する態度の育成（いじめ防止、生徒の特性の理解と配慮、不登校支援、自尊感情育成等） ◇1人1人の生徒の心を育てる教育相談活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の心を正しく理解し、個々の生徒に適切な援助をする。 ◇心身の健やかな成長を図る（健康管理・安全管理・環境美化） <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康の大切さについての知識を高める。 ◇寮での自己管理・自治能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美化意識・経費節減・環境保護意識の高揚を図る。
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員の共通理解、共通行動を大前提に組織的に取り組む ・「身だしなみ指導」は、全職員（学年団）で実施 ・ケース会議の効果的な設定。担任等関係者、専門機関との連携強化

	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会や美化委員会の活発化 ・寮務は全職員で対応（宿直：舎監、日直：その他の職員） 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導、情報モラル講話、人権LHR、登校指導、ひまわり当番、いじめアンケート (2) 生徒理解調査、居心地度調査、教育相談週間、職員研修会、SC等専門機関・支援員との連携 (3) 朝の検温チェック、校内の消毒作業、安全点検 (4) 新しい生活様式の徹底、寮内の巡視、ノーチャイム日課の実施、毎日の清掃活動、一斉学習 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全校生徒の端正な身だしなみ、いじめアンケート結果 (2) 全校生徒の登校状況、居心地度調査結果 (3) 保健室利用状況、清掃の行き届いた校内 (4) 寮務日誌特記事項、清掃の行き届いた寮内 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査を綿密に実施し、結果は全職員で共有した ・登校時、昼休み、健康観察時等、様々な場面で常に声をかけコミュニケーションを図った ・自ら考える姿勢の定着を目指し、衣替え期間の撤廃、長期休業外のアルバイトを認可 ・新型コロナウイルス対策の徹底 ・安全点検の実施と環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ①身だしなみ、情報モラル、授業規律等生徒の様子 ②個々の生徒への適切な教育相談 ③校内、寮での感染対策と環境美化 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「自ら考える生徒指導」をテーマに、アルバイトや衣替え等において生徒が主体的に考える機会を設けた。すぐに達成されるものではないが、成年年齢引き下げも考慮し、様々な機会に継続的に指導していく。 ○新型コロナウイルス対策については、マスク着用、黙食、体調の自己管理等、新しい生活様式がかなり定着している。 ▲各種調査や声掛け、懇談等、きめ細かな相談体制を構築しているが、様々な理由から長期欠席する生徒や進路変更をする生徒が増えている。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き「自ら考える生徒指導」をテーマに、生徒自らが考え、判断していく姿勢を啓発していく。 ・きめ細かな調査は継続し、少人数である本校の強みを活かした見守り体制を強化していく。 ・不登校傾向の生徒に対し、全職員で組織的に対応し、SCや関係機関との連携、職員研修等も実施し、より充実した取り組みを行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の価値観の変容や成人年齢の引き下げを踏まえて「自ら考える生徒指導」をテーマに「生徒心得」について生徒自身に考えさせた上で遵守させる取り組みは評価できる。 ・生徒の悩みを親身になって聞き、心に寄り添った指導をしていると思われるが、他の教員とも情報を共有して、長期欠席生徒が減少するように願います。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付け、自己を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業観・勤労観を身に付けた生徒 自分自身に自信と誇りを持ち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう、「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> 本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 向上心を持ち、多様性を尊重し、仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている よく当てはまる+やや当てはまるの割合＝保(昨年86%)⇒(今年82%) ・生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる 保(昨年89%)⇒(今年83%) ・適した進路情報を示し、可能性を引き出そうとしている 生(昨年92%)⇒(今年94%) ・将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている 生(昨年94%)⇒(今年94%) ◎進路指導に関する2項目で減少。とくに保護者の評価が生徒より進路指導に対しての評価が低い。保護者にもわかりやすい進路指導を意識して取り組みにあたりたい。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の推進、3年間の進路指導計画の改善 ◇外部教育力の活用、望ましい勤労観・職業観の形成・確立 ◇進路情報の提供、説明会の実施、ガイダンスの充実 ◇確かな学力の向上、指導体制の確立 ◇生徒が主体的・対話的で深い学びができるような指導体制の確立	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部と学年会・教科・他分掌との連携を図る。 ・職員会議等によって情報の共有と現状把握に努め、組織で生徒の進路指導および支援を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 組織的な全体指導と個別指導の充実 (2) 地方創生キャリアプランナーの活用	(1) 生徒一人一人の進路実現 (2) 系列選択、進路希望調査、インターンシップ	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・組織的指導および個別指導 強化学習会、進学補習、特編授業、小論文指導 模擬面接、面接指導、保護者進路説明会 ・キャリア教育 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」活用	①進路意識を高めた。 ②外部教育力を活用した。 ③進路情報を的確に提供した。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D

<p>インターンシップ、出前授業、模擬体験授業、パネルディスカッションガイダンス、卒業生講話、校内企業展、職業別探究学習、全校社会人講話、企業見学、大学見学、職業別探究学習</p>	<p>④学力の向上を支援した。</p>	<p>A (B) C D</p>
--	---------------------	------------------

<p>12 成果 ・ 課題</p>	<p>○（成果）今年度はコロナの影響により、2年間中止にしていた全ての進路行事を計画通り実施することができた。また、コロナ禍の中で始めた職業別探究学習や遠方の卒業生のオンライン参加による卒業生講話など、新しい取り組みも継続して実施し、コロナ禍前より充実したキャリア教育の実践ができています。</p> <p>▲（課題）「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業では、教員主体のキャリア教育のスタイルから、生徒の主体性を尊重した授業体系を今後さらに充実させていきたい。とくに探究の時間の授業について、主体的な活動になるような指導体制の確立に課題が残る。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>
-------------------------------	---	---------------------------

<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」でのキャリア教育の充実 ・生徒が主体的に進路情報を収集し、自ら進路実現に前向きに取り組む姿勢を持てる指導体制づくり

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路希望を叶えるために、生徒の多様性を尊重し、きめ細かな指導をしていることを高く評価する。 ・学校運営協議会委員からも提案した「卒業生による社会人講話」は生徒への影響が大きいので今後も引き続き実施してほしい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣を身に付け、自己を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・ 職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業観・勤労観を身に付けた生徒 ・ 自分自身に自信と誇りを持ち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう、「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・ 生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・ 生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・ 向上心を持ち、多様性を尊重し、仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・ 部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3 評価する領域・分野	◇中高一貫教育
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・12年目を迎え、地域の方々と中高の教員が協力し、地域の子どもたちを育てるキャリア教育の推進を図ることで、地域の小学生から高校生へとつながりが広がるとともに、それぞれの取組が定着し、地域にも認められてきた。これらは評価委員会委員に浸透し、目的の理解や成果は高い評価を得ている。 ・平成28年度より、連携中学校から本校への進学率が卒業生の50%前後であったが、令和4年度は44%であった。生徒数が減少する状況において、60%の入学生を確保できるように魅力ある取組の充実を図りたい。 ・高等学校（本校）についての中学生の理解は、年々少しずつ向上しているが、十分ではない。また、地域へのアピールもさらに必要である。連携活動について神岡町内に情報を提供し、さらに連携活動や飛騨神岡高校の良さを印象付けていきたい。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ともに育てよう元気な神岡の子 ・連携型中高一貫教育を軸にした教育活動を展開することで、地域の子どもたちを地域ぐるみで育てる。 ・飛騨市神岡町の特色や状況を踏まえた連携型中高一貫教育を推進することで、地域の理解や協力により、地域の活性化につなげる。
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会の高校の主担当者のもと、中学校の担当者と連携して計画的に取り組む。 ・職員会議において「中高一貫教育事業の取組についての現状報告」を位置づけ、成果と課題を検証する。

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>1) 学力向上委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立と学力向上に向けた取組 ・中高の生徒同士の授業交流、先輩との交流 ・進路指導や学習指導に生かす教員の授業交流 <p>(2) 交流活動委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の高等学校の理解や進路選択への支援 ・地域の人や産業から学ぶ体験学習 <p>・生徒会、部活動交流</p> <p>(3) 地域連携委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での合同活動 ・地域をつなぐ情報発信 <p>・生徒、保護者、地域との交流の推進</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会からの成果と課題</p> <p>(2) 年2回実施する評価委員会での評価</p> <p>(3) 連携中学校から本校への入学者数の増加</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>(1) 学力向上委員会（学習習慣の確立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Step by Step面談指導 ・中高の生徒同士交流（先輩と語る会3回） ・教員の交流（中高教員のT.T.による授業、相互の授業参観及び実践交流・情報交換） <p>(2) 交流活動委員会（進路選択への支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業・職場体験学習（説明会） ・地元企業見学 ・飛騨市、上宝地区小中学生・保護者対象の体験授業 <p>(3) 地域連携委員会（地域での合同活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動 ・交通安全啓発運動 ・地域への情報発信 	<p>10 評価視点</p> <p>① 計画通り実施できたか。</p> <p>② 中学生の理解や中学生の満足を得られたか。</p> <p>③ 地域からの理解や地域との交流はできたか。</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
<p>12 成果</p> <p>○中学生にとっては、高校生との交流、高校教員との交流（高校教員のT2授業交流や出前授業）等により、進路選択においてより明確な目的意識の確立と高校入学後の学習意欲に結びついている。</p> <p>・○高校生にとっては、後輩である中学生と交流する中で、発表の機会を与えられ、自信をつけることができた。</p> <p>▲中学校の先生方に、この取組の必要性・意義を正しく理解し、中学生への積極的な指導に役立ててもらえるように働きかける機会を増やす必要がある。</p> <p>▲少子化の影響で、地元中学生数が減少する中、連携校から卒業生の60%の生徒が入学してもらうために、さらに魅力ある高校にする具体策に着手する必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は12年目に入ったが、新型コロナウイルス感染防止対策を十分にしながら、3年ぶりに実施できた行事が多かった。それを踏まえて、第2回評価委員会において今年度できたことを振り返り、今後の取り組みをより充実させるための協議を行った。各委員会の次年度への課題は以下の通りである。 <p>① 学力向上委員会・・・今年度、中高教員のTTでの授業交流の際、高校教員による数学の授業を実施したが、数学以外の教科でも実施したらどうか。</p> <p>② 交流活動委員会・・・オンラインを駆使して山之村小中学校の子どもたちとも交流できるよう三校でしっかりと連携したらどうか。</p> <p>③ 地域連携委員会・・・生徒会の取組交流ができなかった。オンラインを活用し構えず楽にできる形で交流できないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的には、神岡中学校・山之村中学校との連携であるが、可能な範囲で北稜中学校・古川中学校、さらには神岡小学校、古川町の小学校との連携を積極的に図る。（生徒や保護者・教職員対象の学校見学会、連携中学校以外の生徒の体験学習等の実施） 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりの多くの行事が実施でき、生徒同士の交流が増えただけでなく、中高教員の交流の機会が多く持てたことはよかったと思う。 <p>△地域の方々に本校の魅力や現状を十分認識していただいているとは言い難く、連携中学校から本校への入学者が50%を割っていることは残念であり、今後の対策を再考しなければならない。</p>
